

## 多文化共生「X」

●国が違えば意味も違う？

ジェスチャーやサインのあれこれ

身振り手振りで意味を示すジェスチャーやサインは、言葉が通じなくても相手に意味や意思を示すことができ大変便利です。しかし、私たちが普段使っているジェスチャーやサインは、国によってまったく違う意味になることがあります。

「オーケー」なはずが…

親指と人さし指で丸く輪をつくる

ジェスチャー。日本では「お金」や「オー

ケー」を意味し、多くの国でも承認や承認の意味を表しますが、ブラジルでは「相手を侮辱する下品な意味」になってしまいます。



イエスは横に、ノーは縦に

日本を言ふ多くの国では、はいイエスの時には首を縦に、いいえ(ノー)の時には首を横に振りますが、インドではこれが逆になります。

「X」なのにイエス？

ジェスチャーではありませんが、日本でよく使う「OとX」も、文化によっては伝わりません。日本では、「X(バツ)」は「ノー」や「ダメ」、  
「間違」の意味ですが、欧米では該当項目へのマークチェックに使われる「X」は「OK」と同じ意味で用いられ、「イエス」を意味する場合があります。



◎地域振興課協働共生推進係

☎44-3116

## ひとまち魅力発見伝

●郷土の偉人 書聖「川村驥山」

皆さんは川村驥山をご存知ですか。川村驥山は、明治・大正・昭和の激動期に日本書道界をリードした市内出身の偉大な書家です。

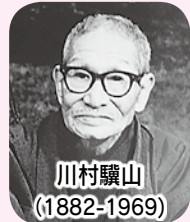
驥山は、1882年に久野村村松(現在の村松)の油山寺門前に生まれました。名を慎一郎、号を驥山と称し、3歳のころより父から書と漢学を学び、5歳の時に、すでに「大丈夫」という傑作を書き上げました。

その後、10歳で当時の静岡県知事の推奨により、県下の小学校を豆書家として巡講。12歳の時には、明治天皇の銀婚式に楷書「孝経」と草書「出師表」を暗書し、献上しています。

15歳からは書家として独立すべく、筆一本で全国行脚の旅へ出発。69歳にて書道界初の日本芸術院賞を受賞し、各地で日本書道界の発展のために活躍して、87歳でその生涯を終えました。

11月に行われた驥山展

平成21年11月には、油山寺にて、地元村松のまちおこし団体鳴沢の会の皆さんが、川村驥山の作品を集めた「驥山展」を開催。多くの市民がその作品を見に訪れました。



5歳にして書き上げた傑作「大丈夫」(長野県・驥山館蔵)



驥山展の様子

◎生涯学習課文化財係

☎23-9269

鳴沢の会(兼子さん)

☎42-4876

## 健康ガイド

●公会堂健康教室を開催しています

市では「健康チャレンジ!!すまいる運動」の一環として、「公会堂健康教室」を行っています。

公会堂健康教室の最大の特徴は、身近な場所で見知りの仲間と一緒に活動できること。皆さんが地域で継続的に健康づくりに取り組めるよう、各自治会の健康づくり推進員が中心となって企画開催しており、気軽に参加できる雰囲気好評を得ています。

主な内容

- ・健康運動指導者による手軽な運動
- ・(ながら運動)など、家庭で継続的に取り組める運動や手軽に出来る筋力づくり運動の紹介など)
- ・保健師による健康講話・健康チェックなど

参加者の感想

- ・「口ごろ、運動する機会が少ないので、公会堂健康教室は非常に役立つと思います」(50代女性)
- ・「参加をきっかけに、ながら運動やストレッチ体操などを生活の中に取り入れるようになりました」(60代男性)
- ・「内容が分かりやすく、いつも楽しみにしています」(40代女性)



活動の様子

健康づくりのきっかけに、ご自身の地域などで開催される公会堂健康教室に、ぜひご参加ください。

◎健康づくり政策課健康企画室

☎44-3138